

1 基本事業 NPO設立・運営相談事業～新設法人のバックアップ～

≫ 事業の目的

事業実施の背景に、新設法人に対する相談事業で感じている課題として、事業報告や役員変更の手続き、会議の開催方法などに関する実務を苦手とする団体が多い。また、新型コロナウイルスの感染拡大により、様々な場面でのICT活用が進み、NPOにおいてもICTを活用し活動に活かす団体が増えているが、苦手意識がある活動者も多い。このような背景から、持続可能な組織となるようサポートする。

≫ 活動内容

■ NPO設立・運営相談

団体の立ち上げから運営まで、幅広い分野の相談に対応する

▶ 相談窓口

NPO・市民活動団体を包括的にサポート。

相談件数 94件（面談・訪問・電話・メール・オンライン） ※1月末時点

▶ 情報発信

メーリングリストでセミナーや助成金情報等を毎月2回発信



相談窓口：小野市うるおい交流館エクラ

■ ICT勉強会の実施

▶ NPO・市民活動団体のための今さら聞けないZoomの使い方勉強会～ホスト編～

開催回数 4回（8/27・9/9・10/18・10/27）

参加者数 延べ18名

▶ NPO・市民活動で使えるGoogleアプリを学ぼう

開催回数 1回（1/12）

参加者数 4名



Zoom勉強会

3月 実施予定

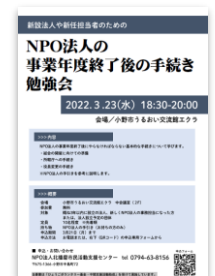
■ 実務勉強会の実施

新設法人や新任事務担当者を対象とした実務勉強会の実施。NPO法人からの相談で最も多い事業年度終了後の手続きに関する実務をフォロー。

▶ NPO法人の事業年度終了後の手続き勉強会

開催予定 3月23日（水） 18:30～20:00

内容 所轄庁への手続き、総会の開催、役員変更に係る手続きなど



≫ 事業の成果・今後の展望

NPO・設立運営相談では、3団体のNPO法人設立をサポートした。また、相談件数についても昨年度と同程度であり、北播磨地域の中間支援として法人運営をサポートすることができた。また、新設法人については勉強会による基礎知識の習得とその後のフォローも実施する。さらに、NPOにおけるICT活用でも参加者が意欲的であったことから実施回数を増やし対応した。

2 企画立案事業 北播磨ソーシャルコネクト事業～NPOと市民とのつながり創出～

≫ 事業の目的

北播磨地域においても地域の課題と真摯に取り組む団体が多くある。そのようなNPOのミッションを達成するためには、多様なつながりが必要不可欠であると考え、市民などがNPOとつながるきっかけが少ないと感じている。そのため、NPOと市民がつながる場所としての事業を実施する。

≫ 活動内容

■ 北はりまソーシャルトーク

北播磨地域で社会貢献活動を行うNPOが、地域課題や活動、将来の地域社会についてトークセッションを行う。

▶ 開催実績

	開催日	テーマ	ゲスト
1	10/29	子どもに寄り添い成長を支える第三の居場所	てとて広場 代表 東野由美子さん
2	11/25	自然を守り、豊かな人を育むまちづくり	NPO法人三木自然愛好研究会 理事長 北村健さん
3	12/23	ダンスから見る地域福祉のあり方	Do-it 代表 阿部裕彦さん
4	1/20	外国人を外国人と呼ばないまちづくりを目指して	NPO法人小野市国際交流協会 副理事長 河嶋栄里子さん
5	2/24	郷土愛を育てるまちづくりと地域住民の交流	NPO法人播州三木城保存会 理事長 五百蔵潤さん
6	3/18 ※予定	「あしたあさって」手の届く未来が幸せでありますように。 一緒に歩む仲間づくり。	NPO法人あしたあさって 代表理事 高橋章子さん



北はりまソーシャルトーク：トークセッション



北はりまソーシャルトーク：チラシ

≫ 事業の成果・今後の展望

地域課題を知り、そこに様々な手法で解決しようとするNPOのことを市民が知り、課題認識の場となった。また、「北はりまソーシャルトーク」が新たなつながりをつくるコミュニティの役割となった。今後は、このコミュニティを維持し、北播磨地域のNPO・市民活動を幅広く考えていく場として発展させていきたい。



実施体制

【事業の目的】

コロナ禍の影響で遊び場難民となっている子育て世代も多く、地域の子育て情報や学童保育情報をネットで探す傾向が多く見られる。そこで当法人では、WEB・SNSサービスを利用した保育サービスを行ったり動画での情報提供を増やしたりすることで、明石市が**最も住みやすい街、子育てしやすい街**となるよう、地域の**子育て・子育てのサポート**を行っていく。

【活動内容】

放課後スクール

～ICTを活用した保育～

神戸新聞社



KIDS
おうちえん



「ことまど」新聞作り
計38作品

「おうちえん」情報配信



入退室管理システム
カザス導入



ipadを用いた活動
(制作したアニメーション動画は
Facebook上で300回以上再生)

～交流事業～

- ・地域住民や高齢者
(囲碁将棋、グランドゴルフ、英会話、サイエンス他)
- ・企業団体 (フエンテFC、神戸新聞社)
- ・学生 (明石北高校、神戸大学、明石高専)
- ・他の学童 (六甲道児童館)

オンライン
交流会



明石北高校生とのオンラインゲーム大会



～自習室の開放～

地域に開かれた
居場所の整備 (wi-fi完備)



おうちカフェみっくす

- ・オンラインイベント (計4回)
- ・地域の子育て情報の発信



先生のお話をゆっくり
聞いて不安が和らぎ
ました。日々の疑問も
解消できました!



広報活動

- ・HPリニューアル
(一部改修)
- ・バナーの設置
- ・紹介動画の作成
(HPにて公開)
- ・児童募集ポスター
- ・公式LINE
- ・ポイントカード制度

LINE
公式アカウント



イベント情報の発信
家庭との連携強化

【成果】

★**おうちカフェ** オンラインイベントにより家庭にいながらも子育て世代同士でのつながりやコミュニケーションの場が得られ、育児の不安や悩み、喜びを共有し、家庭の孤立予防の一助に。

★**放課後スクール** ICTシステムを活用し、保護者との連携強化、こどもたちのICT活用能力が向上。交流事業では異年齢間のコミュニケーション能力向上や、学生の地域貢献意識の向上、地域のつながりの強化、地域の高齢者や企業が学生と共に活動し、次世代育成の場に。地域に開かれた居場所として自習室を整備。

コロナ禍においても**学生**や**地域の高齢者**と**子育て世代**をつなぐ**拠点**として
地域に開かれた誰でも利用可能な**安心**できる**居場所**を今後も提供



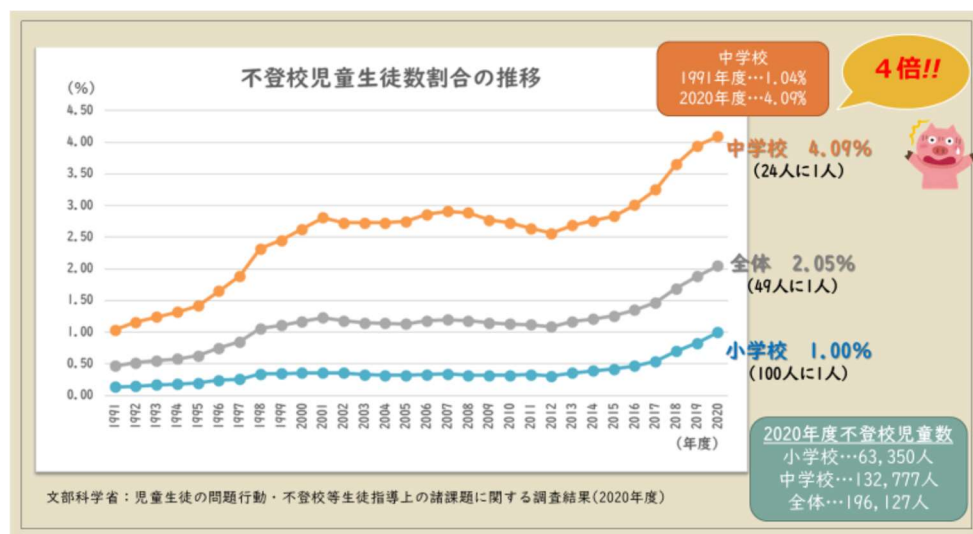
みっくすHP

「不登校や登校しぶりのあるお子さんと親のサポートについて」

特定非営利活動法人みらぼて

1.事業が目指すところ

不登校問題は、学校と家庭だけでは解決しにくい。しかし、行政や学校のサポート対象外であったり、支援を受けられず親子共に居場所がなく孤立感を抱えている。また、小野市には学校へ行きづらい子どもと親の居場所づくりやサポートをする団体がなく、悩みや進路相談など気軽に相談できない状況があり、専門的な機関の回答で親も子も追い込まれてしまうこともある。当事者の親であるスタッフが自身の経験を活かし運営・サポートすることで、気持ちに寄り添い気軽に話せる関係を築き、安心できる居場所となり外にいけなかった子どもや親が人目を気にせず、社会に出ようとするきっかけ作りを目指す。



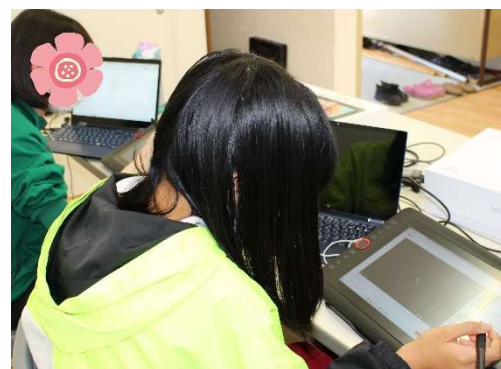
2.活動内容

(1) 子どもの居場所【みらぼてLAB.】

不登校や引きこもり、登校しぶり等学校生活に問題を抱えるお子さんの居場所作り

実施日/4月～3月（毎週月曜日）、対象/学校へ行きづらさを抱える児童・生徒

内容/パソコン、料理、手芸、工作など利用する子どもたちが取り組みたい事を決める



(2) 無料相談

子育てに不安を感じている保護者と、学校へ行きづらさを抱える児童・生徒からの相談を電話やSNSにて24時間受付や、対面などにて対応

実施日/4月～3月（オンライン・対面で、随時）

内容/進学相談、生活相談、医療機関等の紹介、行政や専門窓口へ取り次ぐなど

3.成果や課題点

(1) 成果：子どもの居場所では、同じ趣味を持つ気の合う仲間ができ、週に一度の自分の時間を持つことで心が安定し、生きる気力がわいた。その結果、短い時間でも少しずつ登校することへと繋がった。月曜日は居場所に行くという1週間のルーティーンが出来、生活にメリハリが出来てきた。また、やりたい事を見つけ、将来のことを考え自ら進路について調べるようになった。無料相談ではLINEでの相談も受け付けており、相談者が限界になる前に相談することや吐き出すことで、悩みに対して落ち着いて向き合え、気持ち軽くなることへのサポートができた。また、大人だけでなく関東在住中学生からの相談もあり、長期休み前いじめ相談案件は担当市教育委員会へ連絡することができた



(2) 反省点・課題点：子どもの居場所での反省点は、現在利用している子同士の輪ができ上がって、新しい子が入りにくい。課題点は、他人とのコミュニケーションが苦手な子どもがおり、周囲との壁の払拭方法が難しい（と感じている）。また、居場所開設が週に一度だけと少ないことも信頼関係を築きづらい要因と考える。



無料相談では、オンラインや電話から対面につながった後の対応。

4.今後の展望・成果の活用

子どもの居場所では、新規の子が入りやすい環境づくりをする。また、他者とのコミュニケーションの取り方を無理なく自然と身につけられるようなプログラムを取り入れる。居場所開設回数を増やす。そして、学校へ行きづらさを抱える子どもたちが、校内の別教室や自宅からも同じように授業を受けられるなど、子ども目線に立った学習の場を考え、家庭への経済的負担なく同じように教育を受けられる体制づくりに向け、学校や行政へ働きかける。

また、無料相談では、市外の児童からLINEを通じて相談もあったので、地域外の相談であっても教育委員会や関係機関と共有できるような仕組みづくりとして、連絡協議会を立ち上げる。

赤ちゃん先生クラスによる結婚・出産・育児を軸にした オンライン型キャリア教育の開発

ママの働き方応援隊 北播磨校

1. 事業の目的

従来より行っていた「訪問型の赤ちゃん先生クラス」の可能性を広げるため、昨年に引き続き「オンライン型の赤ちゃん先生クラス」を実施する。可能であれば訪問型も実施。また結婚・出産・育児への生徒の理解・関心の男女間格差を解消する内容の開発をキャリア教育の専門家と協働して行い、キャリア教育上のジェンダー格差解消にも寄与できるよう取り組む。

2. 活動内容

①赤ちゃん先生クラス：9高校にて実施、受講生徒429人

学校名	開催形式	開催学年	生徒人数	開催日
兵庫県立小野高等学校	訪問	3年	23人	2021/12/23
兵庫県立西脇高等学校	訪問	2年	28人	2021/11/16
				2021/11/30
兵庫県立社高等学校	オンライン	1年	120人	2021/12/20
		1年	120人	2021/12/17
兵庫県立北条高等学校	訪問	3年	6人	2021/11/5
		3年	11人	2021/12/8
兵庫県立三木東高等学校	訪問	2年	22人	2021/12/20
				2022/1/14
兵庫県立柏原高等学校	オンライン	3年	12人	2021/11/1
				2021/11/22
兵庫県立三田西陵高等学校	訪問	3年	9人	2021/11/29
兵庫県立篠山産業高等学校	訪問	2年	38人	2021/11/15
				2022/1/17
兵庫県立氷上西高等学校	訪問	1年	40人	2021/11/30
				2021/12/21



▲訪問型の赤ちゃん先生。カバンの中身を見せています



▲オンライン型の赤ちゃん先生。画面越しに自然な表情の赤ちゃんが映り、複数の母親から話が聞けます

②オンライン研修会

- ・12/17(金)「ジェンダーに関する講座」 講師：鴨谷香さん（キャリアオフィスカモタニ）
参加者：12名（後日録画参加 3名）
- ・2/24(木) (予定)「赤ちゃん先生の意義(仮)」 講師：大泉華音さん（早稲田大学院生、赤ちゃん先生を研究）

③アンケートまとめ（3月実施予定）

3. 事業の成果

赤ちゃん先生クラスはコロナが比較的落ち着いている秋に多く実施できたため、学校の希望で訪問型での開催を多く実施できた。またオンライン開催では、テレワーク中のパートナーが登場したり、パートナーの録画出演もあり、男性目線での話もできたので、男子生徒がより結婚・出産・育児をイメージできる機会になった。研修会では、ジェンダーをどうとらえるかについて学びを深めることができ、ジェンダー教育について改めて考える機会となった。

4. 今後の展望

コロナ禍で開発された「オンライン型赤ちゃん先生クラス」であったが、訪問型ではできなかった家での赤ちゃん先生の様子を見ることが出来たり、パートナー目線でのお話をよりリアルにお伝えできるようになったりと、オンラインの利点を生かした新たな可能性を生み出すことができた。学校側からは訪問型の要望も強いが、今後はニーズによってオンライン型との併用も考えて実施していきたい。

コロナ禍でも常設会場で思いっきり楽しめる「SDG s スクール」

NPO法人 つみっくらぶ

事業が目指すところ

つみっく秘密基地遊びを通して培った、防災（避難所プライバシー問題）・環境問題（森林）の知識を生かしコロナ禍でも活動できる、少人数のイベントを企画運営していく。又環境・防災も広くSDG s 課題の文脈で語られるようになり、啓発でなくむしろ教えてもらう スクールの場と遊びをミックスして提供することを目指す

活動内容

2021/11/3 高砂市 よって村荒井感謝祭 つみっく防災スクール

/11/20 三木市緑ヶ丘 防災スクール

10月～2月 つみっく環境スクール SDG s を学ぶため 興味を引く秘密砦の冒険

（コロナ禍の中、対策を十分に行い、少人数でのイベントを企画した。）

2022/2/11- SDG s ハウス組立 （間伐材を利用した、ハウスは何度も建替え可能なハウス）

12 つみっくで家を建設し、水回りにわ多目的コンテナを置く

災害発生時、避難所の新しい形を提案 ※コンテナは2月25日予定

2月13日 SDG s 講演会 つみっく考案者三島晶彦氏による 講演を実施

優秀賞 には 小野適応教室の 生徒が 金賞・銀賞を受賞



よってこ村感謝祭



秘密砦の冒険



つみっくハウス



SDG s 講習会

成果・課題点

- 成果
- ・三木及びよってこ村感謝祭では、多くの来場者、大人・子どもに震災時の避難所状況を理解してもらいプライバシーの大切さを認識してもらった。150名
 - ・秘密砦の冒険 参加者 小学生2 中学生10. 大人15名 7回団体
自分のSDG s を記入してもらった最優秀者を表彰
 - ・SDG s ハウス建設 2日かかりで組み立て 8名で

事業の反省点

- ・やはりコロナの感染が。少し減った時期には活動できたが、再度の拡大で活動へのブレーキがかかった。目標集客を大幅に下回った

今後の展望、成果の活用

今注目を集めているSDG s に特化したイベント秘密砦の冒険は、体験者全員が「面白い」「興味を持った」との意見がもられた。

今後はこれまで以上にPR活動を行い参加者を増やしたい。

つみっくハウスについても、災害時の避難住宅としての需要を獲得したい。

子育てよろず相談事業



あそび (体験プログラム) を使った 「つどい」と 「相談」 の場

コロナ禍で、集団でのあそびになかなか参加できない親子も多く、親も子どももストレスや孤独感を感じています。「森の中での活動」という、親子が一步を踏み出しやすい環境を設定し、引きこもりがちな親子が「ちょっと出かけてみよう」と思えるようなアプローチを行います。また、参加者を0-3歳児の子どもと親に限定し、同年代の親が抱える悩みや不安を「つどい」中で、親自身が「つながる」という安心感を得、悩みを一人で抱え込まず「相談」への一步を踏み出すきっかけを作っていきます。

0さいからのソトアソビ「MORIMORI」開催日時と参加人数、プログラムについて

8月31日「夏の森のおさんぽ会」	5組
9月24日「絵の具であそぼう！森のアーティスト」	3組
10月29日「のんびり秋のオトゴはん」	3組
11月12日「コネコネかんたんパンづくり」	3組
12月10日、1月14日	中止
2月11日「あったか親子カフェtime」	6組
3月11日「焚き火でほくほく！冬の森探検隊」	5組予定

🌿 新型コロナウイルスを警戒して、直前のキャンセルが多かった

🌿 開催地の三田市以外の市町から参加者が集まった。

→近隣地域の子育て支援センターや団体を介した、子育て世代に直接届く広報が参加につながった

→次年度開催に向けてコロナ禍での阪神地域の子育て世代の動向を知るとともに、更に子育て支援団体とのつながりを強化していきたい。

🌿 リアルな場で同じ年代の子をもつ親同士が「そうそう」「あるある」と普段の生活について話ができた。

🌿 先輩ママへ質問する姿や「リフレッシュできた！」との声もあった。

🌿 学生ボランティアが子どもたちとたくさんあそんでくれたので、母親たちもゆっくりと過ごすことができた。



「不登校やひきこもり者の相談支援事業」

特定非営利活動法人 朝来どんぐりの会

1. 事業が目指すところ

全国ではひきこもり者の数が100万人以上と推定されるほど大きな社会問題となっている。朝来市においては令和2年度の調査で約93人と報告があり、ひきこもり者への支援が求められている。

ひきこもりの当事者や家族は大変な苦悩を抱えながら生活されている。安心して気軽に相談できる場所、交流や研修の場所として「朝来どんぐりの会」は、当事者や家族と一緒に課題に取り組み、当事者が自分らしく生き生きとした生活を過ごされることを目指している。当事者や家族が問題を抱え込み孤立することがないように寄り添いながら支援を行っていききたい。

2. 活動内容

(1)相談事業

電話相談・来所相談・家庭訪問等で相談を受け付けている。居場所開所時間以外でも希望に合わせ日程調整をし対応している。

(2)当事者の交流・体験事業

自立を目指した「お料理会」「交流サロン」「お出かけ体験」を実施している。

(3)ひきこもり者の家族の交流と研修会

① 年2回の「どんぐり親の会」を実施

・令和3年7月25日（日）第3回朝来どんぐり親の会
講師：NPO法人コウノリ豊岡ドーナツの会 山本進先生
「家族へのかかわり方」 参加者：スタッフ含め27名

・令和3年11月28日（日）第4回朝来どんぐり親の会
講師：NPO法人ピアサポートひまわりの家

ピアサポーター前野伸輔氏・井上綾香氏・松本理事長
「ひきこもり体験からの出発」参加者：スタッフ含め33名

② 令和3年12月より、毎月第3土曜日午後「どんぐり親のサロン」を開催している。



10月1日念願の居場所開設！



11月28日第4回朝来どんぐり親の会

3. 成果と課題点

(1)成果…令和3年3月にNPO法人を設立し、10月には念願の居場所「どんぐりの家」を開設することができた。これは、多くの方のご協力をいただいたお陰であり、またスタッフが一丸となって努力した賜物でもある。

8月には、朝来市藤岡市長に活動報告を行い、会への理解を得ることができた。居場所の開設日には、市長や市の関係者・市議員・地域の方など大勢の来所があった。しだいに多くの方々にご支援をいただいたことは活動の励みとなっている。また度々新聞に会の活動を掲載していただいたことは確実に活動の広がりへと繋がり、居場所への来所者が少しずつ増加している。

コロナ禍でもできるだけの活動を行いたいとの思いから、電話や手紙等の連絡により対応し、居場所の開所も継続した。また「どんぐり親の会」を2回開催し多くの参加者があった。その時の講演内容が大変すばらしく、参加者に深い感動を与えたことは、ひきこもり支援の必要性と親の学びたいという強い思いがあることがわかった。

(2)課題…居場所を開設したことにより、ひきこもりの家族との相談や関わりも増えてきているが私たちがどのように支援をしていけばよいかまだまだ模索をしている。今後さらに研修を積み、他の関係機関と連携しながら、より良い支援を目指す必要がある。

4. 今後の展望

(1)居場所の活動を充実させる

当事者や家族が気軽に立ち寄り、日常の相談や心を癒す場所として利用していただくことや自立に向けた交流、お料理会、お出かけ体験等を充実させていく。

(2)親の交流会と研修を充実

年2回の「朝来どんぐり親の会」を開催し交流と研修を深める
毎月第3土曜日の「どんぐり親のサロン」で親どうしの繋がりを深めていく。



SODA地域づくり
活動応援事業

3. 人材育成

◆事業がめざすところ:地域の人材育成と仲間づくりのために用意したセミナー

～活動内容～

第1回地域づくり応援セミナーの実施(市民発電視察～鳥取県～)

テーマ:これからの持続可能な社会をどう描くか(その1)

「エネルギーを自分たちの手に…」

・ローカルエナジー株式会社見学

- ・市民発電とっとり 事業内容の紹介と意見交換会
- ・認定NPO法人ハーモニーカレッジ「空山ポニー牧場」にて市民発電設置状況等視察
- ・鳥取県畜産農協にて市民発電設置状況等の視察
- ・別府電化農業協同組合 別府発電所の見学



第2回地域づくり応援セミナーの実施

テーマ:これからの持続可能な社会をどう描くか(その2)

「withコロナ社会における社会教育の在り方」



◇事業がめざすところ:兵庫県が目指す「参画と協働」の理念に基づき当団体の活動の柱である「市民社会の実現」に向けたNPOと行政の協働会議「これからの島の暮らしを考える市役所」を開催

～活動内容～

第12回これからの島の暮らしを考える市役所

テーマ:これからの社会を描くその1(オンライン&リアルセミナー)

「淡路島の未来ビジョンの議論すべき課題～淡路島と日本と世界との関り～」

第13回これからの島の暮らしを考える市役所

テーマ:これからの社会を描く(仮題)その2(オンライン&リアルセミナー)

「淡路島の新たな挑戦“将来ビジョンの実践例”」

・地域づくり応援セミナーの実施

……例えば、コロナ禍で、コミュニケーションが取りにくくなっていくなど、地域の課題を多様な市民とともに話し合いこれからの社会をどう描くという仕組みを考える。

…エネルギーは、地域が自立するための大切な要素であるが、これまで、巨大電力会社に任せてきた。しかし近年、自分たちの力で生み出せる時代が来ている。淡路島では、個人宅からメガソーラーまでさまざまな再生可能エネルギーがすでに設置されているが、それらにはまだ「技術的・社会的」な多くの課題がある。そこでこれらに対処する方策を先事例に学び、効果的な実践につなげるきっかけを作る。

島の市役所 (PPP)
Public
Private
Partnership
(官民連携)





地域目標を共有するための「SDGs 認証」の構築

1. 事業が目指すところ

「社会的弱者支援」を軸とし、「誰もが役割のある」新たな社会を目指して努力してきたが、今ようやく国連の「誰も取り残さない」というSDGs目標が世界中の関心を引き、急激に動き始めた。この動きに連動して、私たちの活動も一気に加速したいと本プロジェクトを計画した。そのために、まず淡路島の未来を担う中高生に、「淡路版SDGs」の作成を行い、次いでその具体化のために、当事者として取り組んでもらう。それによって、SDGsの単なる学びを越えて、その意味するところを自ら感得し、実践できる若者を育てる。



3. 成果や問題点

- ・SDGs認証に地域住民の関心がどれほど向けられるか
- ・提案を広く受け入れて行動につながるだろうか(特にSODAへの信頼度)
- ・「未来に生きる子どもたち」と一緒に進めていくことから始めてみる。その結果、専門家の問題提起やさらに深めたワークショップなどを通して、子どもたちの感性の鋭さや、我がこととして考えられる姿に、その可能性を見出すことができたし、今後、大きな期待を持つことができた。



2. 活動内容

①作業グループの構築

NPO法人KES環境機構、島内の小学校教諭、高校教師、京都大学SDGs

②SDGs市民向け学習会の開催

「第1回 SDGsキックオフ宣言～SDGs は明るい淡路島をつくるのか～」

「子どもたちとつくるSDGs ～持続可能社会における循環の意味～他(全3回)」(中学校・高校(2校)で開催する。

- ・SODAの取り組みの紹介(社会的弱者への気づき)
- ・専門家による地球の課題整理と未来への警鐘を鳴らす
- ・自分自身で考える時間づくり(子どもたちとのワークショップ)

③「SDGs認証」の新たな評価システムの構築会議の実施(全6回)

- ・南あわじ市との連携を図る。
- ・京都大学環境学堂浅利研との連携を図る。
- ・認証のための判定基準(仮)を作成する。



4. 今後の展望・成果の活用

- ・子どもたちの問題意識を高めるための話題提供や、地域で具体的に取組んでいる方々との出会いの場を作る(島の学校～高校生編～)
- ・SDGsをテーマに島内の高校生と語るフォーラムを開催し、発表の場を用意する。→「SDGs宣言」へ
- 子どもたちの熱い思い(エネルギー)で地域の大人を動かしていきたい。(マスコミで取り上げてもらう)
- ・市役所にも応援を期待し、行政との協働につなげたい。
- ・具体的な取り組みに向けて、子どもたちのこれからの活動を応援していきたい